

## 沖縄市北部川崎川支流の上流部にある湿地帯の有機フッ素化合物調査結果について

### 経緯・目的

- 県のこれまでの調査で、沖縄市北部にある産業廃棄物最終処分場内に溜まっている水等から PFOS 等有機フッ素化合物（以下、「PFOS 等」という。）が検出されたため周辺河川の調査を実施したところ、川崎川（天願川の支流）の当該処分場から離れた支流地点において、他の地点と比較して高い濃度で検出された。
- 当該処分場とは別に何らかの汚染源があることが示唆されたことから、川崎川支流の上流部にある湿地帯の汚染状況を把握するため、令和4年2月に湿地帯内の8地点で PFOS 等の調査を実施した。

### 結果

- 湿地帯内の8地点のうち、7地点で環境省が定めた PFOS 及び PFOA の暫定指針値（50ng/L）を上回る値が検出され、特に2地点で突出して濃度が高かった。PFOS 等が検出された原因については不明である。

表. 調査結果一覧（採水日：令和4年2月16日）

地点番号	PFOS	PFOA	PFOS+PFOA	PFHxS
A	29	37	67	320
B	7,500	850	8,400	4,400
C	230	64	290	100
D	1,100	370	1,500	1,200
E	180	51	230	43
F	160	43	210	35
G	6	2	8	2
H	520	140	660	560

※単位（ng/L）

※PFOS+PFOA の値は、数値の丸めの関係で合計値の和と一致しない場合がある。

### 今後の対応について

- 今回の調査結果について、関係機関とも情報共有・連携を図り、湿地帯のモニタリングを継続するとともに、周辺事業所に PFOS 等を含む製品の保有・使用履歴を確認するなど、汚染源及び PFOS 等が検出された原因の特定に向けた取り組みを行っていく。